

インドネシア事情

秦 茂

インドネシアの人たちの気質について書いて見たい。田中角栄氏が、かつて現職の総理大臣として権勢を振っていた一時期のことである。田中氏にとって当時、国内には何一つ恐いものがないに違いない。その時の総理大臣のインドネシア訪問があった。空港から大統領官邸に向う車の中の角栄氏は当然国賓であるから、沿道には数10mおきに兵士が配備されて、警戒に当たっていた。

不意にその田中角栄氏の車をめがけて数百人の学生がおしかけたという。その時、兵士たちはどうしたか？兵士たちは一斉に銃を上にもって持ち上げて、学生たちが自由に兵士たちの間を通り抜けられる様に道をあけたということである。田中角栄氏をのせた車はやっとの思いで大統領官邸にたどりついたという。8年前にインドネシアで遊んでいる時に現地で聞いた話であるが、私はもし

日本の警察であったら、ましてかつての日本の軍隊だったらこんな事が行なわれるだろうかと考えてみた。新興国インドネシアの国民性をこの時、身にしみて感じたのである。

ジョグジャカルタでは、市街地をはなれて郊外に行こうとすると全く英語が通じなくなる。この時に大へんお世話になった青年がいた。彼は目下、日本車と日本語の勉強に夢中だ。自動車の解説書を日本語の本で勉強しようと考えている。その彼がインドネシアが文化国家になれないのは、1日に5回も行われるイスラム教の礼拝のためではないかというのである。“僕はキリスト教徒だから礼拝には無関係だ、だから昼日中でもちっとも眠くない”大いに国の宗教に対して批判的なのである。

私は東京に帰ってから、彼に日本語で書いた自動車の解説書を贈った。

車について

この国では、車検の制度がない。それで日本では一寸お目にかゝれないクラシック・カーが走っていると思うと、日本やイタリアの高級車が走っている。クラシック・カーマニアにはきつとお気に召すだろう。

恐らく何人かの観測者の間には、国際免許を取って行くと現地での行動が楽になるとお考えの方もおられると思う。しかし、これについては、是非現地で運転手ごと車をチャーターされることをおすすめしたい。ジャカルタの日本の一流企業では、社員に車の運転を禁止しているのである。私自身もジョグジャでこんな光景を目撃した。人身事故を起してしまった車をとりまいて人があつまり口論をしているのである。20人位はあつまっていたと思うが、彼らにとって車の事故の見物は一つのレジャーなのである。

車の中からなので、そのまま通りすぎてしまったのだが、短い私のジャワ滞在期間にもう一度同じ光景を目にしている。ロ々にののしり合っている群衆はその内に運転手を引きづり出しもしも被害者が彼らの仲間の一人である様な場合、投石さわぎにまで発展することがあるそうである。是非このようなことにならないために短い旅行だったら、国際免許の利用はやめた方が賢明だと思う。

刑務所について

実は今回の旅行の前にジャカルタは大都会であるし、遠近の島々から流れ者が集って来て、犯罪が多いけれども、奈良や京都に比べられる田舎町、ジョグジャやソロは大へん静かな町であると聞かされていたのである。しかし犯罪の波は、この静かな町にも押しよせているらしい。ジョグジャの町には比較的目立つ場所に新しい刑務所が作られている。そしてこの無料ホテルは田舎町ジョグジャでも結構有効に使われているらしい。

サラリーマンの月給と物価

ソロの町には、美人が多い。車でジョグジャの郊外からソロの市の中心に入って見ると大へん良く分る。市の中心に近い中華レストラン・オリエントに入って、食事を待っている間にその美人ウエイトレスに、サラリーはいくら位と尋ねてみた。やっと答えてくれたのだったが、日本

円にして、2万円位という答えが戻って来た。調べて見ると若い人達の月給は日本円にして1万5千円から10万円というのが一般であるらしい。東京と比べると本当に生活費は安くあがるらしいのだ。

生活必需品ではない商品、例えば本を始めとして、カメラ、ビデオの類はとても手が出ない位高価であるという。実際、書店での立ちよみが目立って多い(日本のように学生と子供ばかりではない)。輸入物にいたっては、更にすごい。日本で例えば150万円位の自動車を、インドネシアで買いたいと思うと500万円近い金を払わされるという。

差額350万円は当然政府のものになるが、今インドネシアでは、道路、公共施設、特に学校などを次から次へと建設していて、国民もこれは当分の間仕方がないといった、あきらめムードなのである。

バリ島の踊り

ジョグジャカルタでも、満月の夜はブランパナンの前庭で、ラーマヤナの舞踊が見られるというが、新月を目指す日食仲間にはとても見られそうにない。しかしバリ島に立ちよると2つの踊りが、観光ツアーに組込まれていて、夜はケチャック・ダンス(一名モンキー・ダンス)と朝はパロン・ダンスが見られる様になっている。パロン・ダンスは“ガメラ”音楽がバックに使われていて、アメリカ人の観光客が多いと英語の、日本人の観光客が多いと日本語の解説を書いたビラが渡されるので、言葉は分からないでも内容はゼスチャーから理解できる。

バリ島では良い魂と悪い魂がいつでも同時に存在すると信じられていて、良い魂(パロン)と悪い魂(ランダ)の戦いを舞うのだが、芝居はどちらの勝利もない。終りのない戦いを表現している。ながめていると(インドネシア語が分からないので)、歌舞伎の所作事とか、能舞台の太郎冠者のかけ合いなどの原型?がふとオーバーラップして来る楽しさがある。

インドネシア料理

本場のインドネシア料理を経験しておいた方が、と思われる方は、六本木と新宿(カブキ町の入口)にインドネシア・ラヤがあるので、試食されるのも良いと思う。

ナシゴレン(焼き飯)、レンダン(牛肉)、アヤムゴレン(鶏のから揚げ)、サンバルウダ(えびのいため煮)、ガドガド(野菜サラダ)、サテカンビン(羊の串焼き)、サテアヤム(とりの串焼き)、ソトアヤム(鶏のスープ)、そして、デザートにビザンゴレンなど楽しんで下さい。ジョグジャカルタでは、特にアヤムゴレンがおいしいとか。